

新・追浜 歴史年表

上杉孝良編



追浜地域運営協議会

はじめに

この年表で取り上げた「追浜地区」（旧浦之郷村）は、凡そ現在の追浜行政センター管内と重なります。この愛すべきふるさとの海岸線は自然の起伏に富む絶景の地でした。すでに中世後期には禅僧たちによって「天下の佳境」と詠まれ、近世後期にも坂中観音寺の山頂からの眺望を賞され、「漢地ノ西湖モカクヤランノ勝景ナリ」と記されています。

しかしながら、この風光明媚な自然環境も近代に入って軍施設の進出で、無惨にも大きく変貌してしまいます。今から90年前『田浦町誌』（昭和3年）の筆者は、「惜しいかな帝国国防のためとはいえ、科学文明は自然を破壊して、また昔日の観少なきことを」と嘆きの言葉を遺しています。

今日、「追浜地区」はその自然環境とともに生活環境も大きく変化しましたが、そこには原始時代から現代まで人々が営々と築き上げてきた長い歴史があり、痕跡があります。それを少しでも辿ってみたいとの思いから、この「歴史年表」は生まれたものです。しかし、古代から中世前期（鎌倉時代）にかけては、ほとんど徴すべき史料はなく、その沿革は不詳です。幾らかでも明らかになるのは、中世後期（南北朝・室町時代）以降のことです。後北条氏治世下の領主朝倉氏、近世の浦之郷陣屋（浦之郷代官所）、近代では軍施設の進出にともない村は町へ、そして市へと発展、現代では平和産業港湾都市の市是のもと、軍施設の転用によって戦後復興の一翼を担い、その流れの中で今日に至っています。

以上のような「出来事」を集積した『歴史年表』ですが、これを一瞥するだけで追浜地区の歴史の概要を知ることができると思います。が、一つ一つの「出来事」は断片的なメモに過ぎません。そこに隠されている歴史的事実を掘り下げていただければ、立派な追浜地区の歴史書が出来上がることでしょう。そうなれば望外の喜びです。

本書作成では史料の渉獵もままならず、遺漏もまた誤謬もあるかと思えます。ご寛恕を頂戴するとともに、今後さらに筆を加えていただくことを願っております。

なお、刊行に当たっては、大長勝次氏（NPO 法人よこすかシティガイド協会）をはじめ昌子住江氏（NPO 法人アクションおっぱま理事長）や追浜行政センター事務局など関係者にお世話になりました。記して厚くお礼申し上げます。

令和元年 8 月

平六ヶ入りの茅屋にて 上 杉 孝 良

目 次

◆はじめに	1
◆目 次	2
◆凡 例	3
原始・古代	4
中 世	8
近 世	13
近 現 代	33
明 治	33
大 正	44
昭 和	52
平 成	91
出典対照・略称一覧	100

凡 例

1. 本年表は凡そ追浜行政センター管内の地域(旧浦之郷村)に関する出来事を、原始から平成28年(2016)までの年代につき収録したものである。
2. 各年代については、年号(和暦年)を記し、その下に西暦年を()に入れて記した。改元年は近世以前については、1月1日までさかのぼって新年号を使用し、近現代については改元日の前後で年号を使い分けた。また、明治6年1月1日の改暦(太陰暦は明治5年12月2日)までは太陰暦を用い、それ以降は太陽暦により表示した。
3. 見出しの月日は、日付不明の場合、年月のみで「12. ー」などと不明日を「ー」で記した。また、月日不明の記事は「この年」、年月日を特定することができない記事については「〇〇年間」「この頃」を用いた。
4. 人名については敬称を省略し、年齢の記載は近代(昭和20年)迄は数え年でこれを記した。
5. 地名については、昭和26年4月に浦郷地区(大字本浦、鉾切、深浦、榎戸、日向)の町名地番整理が実施され、新町名(現町名)に改められているが、本稿ではそれ以前の地名でも、旧地番によらず理解しやすい現町名で表示したところがある。
6. 「出来事」欄の事項の末尾に、()で文献等名を記し、出典を明示した。なお、()で出典史料名を記したが、その名称は適宜略称を用いた。その略称については、巻末に史料・文献との対照一覧を付した。併せて考古遺跡関係の参考文献を挙げたので参照されたい。

以上